

温暖地の飼料栽培

あれこれ

自給飼料依存度の最も高い家畜は牛、馬、綿羊、山羊等であるが、最近特に増加した豚、鶏も栄養価で少なくも一〇、二〇％は青草で与える必要がある。豚の場合は四〇〜七〇％まで、羊や羊づるを利用することもできる。

水稻の跡作にレンゲを播いて利用する方法は古くから行なわれているが、現在はそれだけでは不充分で、水稻早期栽培跡を利用して燕麥、ベッチ、家畜カブ、レープ、イタリアンライグラスなどの単混播が行なわれている。更に進んだ酪農家は田畑輪換を行ない、早期水稻跡に数本の排水溝を付けて広幅にイタリアン、ペルニアルあるいはHワンライグラス、ラデノクローバーなどを九月上中旬に混播して、年間二〇、〇〇〇〜二五、〇〇〇キの収量を挙げている。自給飼料もこの方法まで踏み切ると、水田酪農も始めて軌道に乗り、計画のたつ、いわゆる楽農になる。

畑地の場合は飼料作物をつぎつぎに作付けすると、自給飼料が年間を通じて収穫利用される、従来いろいろと指導されている方法を今年こそ実行していただきたい。

酪農経営の仕方にもいろいろの型があると思うが、一番拙いのはワラと濃厚飼料で飼う方法である。それについて、ワラと購

入飼料と僅かのサイレーシの給与、もちろん実際には若干青草の燕麥、またはイタリアンなどが給与されていると思うが、これだけでは有利な酪農経営はむずかしい。冬期間でもイタリアン、オーチャードなどの乾草と多量の家畜カブなどの根菜がサイレーシと一緒に給与出来てこれに若干の配合飼料などが補給されるならば、鬼に金棒である。

カブの増産、さて牛乳は御承知のように八七％までは水分であるし、尿とヨダレの分泌量もまた大したものだから、乳牛の毎日の飲水量はかなりなもので、普通乳量の三〜五倍といわれている。寒い冬には冷い水を飲むと多くのカロリーが消耗されるので、どうしても牛は我慢し勝ちになる、この時期に植物汁液として不知不識に多量の水を飲ませることは泌乳量に大きな効果がある。その点カブは九〇％程度の水分を含むほか、ビタミンや汁液中の酵素のため消化は良く、冬期間特に優れた価値を發揮する。短期間によく一〇キ当り七〇〇〜一〇、〇〇〇キの収量を挙げ得るし根二、葉一の割合で取れ葉もまた栄養価が高い。温暖地では下総カブ、セブントップなどが適当である。今年は大いに栽培利用したいものである。

日照りに強い牧草の種類

山の採草地や傾斜地の草生改良をして、牧草の生産量を上げるためには、土地の条件や気象状態に適した牧草の種類をえらぶことが大切である。元来、山や原野の飼料となる植物はササ、ススキ、チガヤなどいづれも乾燥に強いものばかりである。

これらの草も収量さえあれば牧養力はあるが、一般には生産力が低く、すぐ硬くなるので見かけよりも飼料としての利用価値が少ない。そこでこれらに代るよい牧草類を取り入れる必要が起つてくる。

徳島県農試では県北方の雨が少なく、夏の早ばつのひどい板野町の放牧場で耐旱性の強い牧草について試験をしているので、その結果をここで紹介したい。

試験成績下表の通り

- 1 播種、移植とも四月十八日
- 2 一回刈り六月二十日、二回刈り九月十六日
- 3 肥料は基肥成分量でN・P・Kそれぞれ一〇キ当り四キ、追肥も同様
- 4 ジョンソングラスの草丈はいずれも穂先まで、ダリスグラスの二回刈り草丈も穂先まで、その他は葉先までの最高草丈である。
- 5 播種区の成績の悪いのは発芽不良によるもので調査成績のないのは発芽後枯れたものである。これは播種時期が適当でなかつたもので、この地区ではこれらは何れも秋まきするのが原則である。
- 6 移植株は試験場で一年育てたものであ

耐旱性牧草の比較試験 (昭35・徳農試) 10キ当り収量

牧草名	播種区		移植区				区 生草量計
	草丈	生草量	1 回 刈 り		2 回 刈 り		
			草丈	生草量	草丈	生草量	
ジョンソングラス	82	750	107	1,326	104	908	2,234
バーミュエダグラス	—	—	27	636	30	536	1,172
ケンタッキー31フェスク	33	450	43	660	50	718	1,318
クレストッドホイトグラス	—	—	43	700	50	358	1,058
ダリスグラス	—	—	55	1,806	141	2,300	4,106
オーチャードグラス	—	—	50	1,540	33	586	2,126
ハーディングラス	41	620	48	1,336	32	746	2,082
トールオートグラス	—	—	50	1,028	99	1,396	2,424
イーピング	57	562	74	1,056	114	1,166	2,222

るが、活着もよく移植の時期としては適当であつた。